

三田市スポーツ推進基本計画にかかるテーマ別審議項目

1. スポーツで「子どもに夢を！」

スポーツを「する」ことで、「楽しさ」「喜び」を得る、スポーツを「みる」「ささえる」ことでみんながスポーツの価値を分かち合い、子どもたちの夢や希望を育む。

【これまでの取り組み・成果】

- ・「さんだっ子元気アッププログラム」を作成し、小・中学校各3校（推進校）で運動の専門性に優れた指導者「さんだっ子元気アップサポーター」を派遣し、子どもたちのスポーツへの関心、愛好度を高める取り組みを進めている（No. 29, 32）。
- ・小学校では三田市教育研究グループの体育部会で、中学校は三田市中学校教育研究会保健体育部会で指導力の向上などについて研究を行っている（No. 33）。
- ・外遊びや体づくりの活性化に向けて、全市立幼稚園（10園）、小学校1校で、園庭及び中庭を芝生化して、保護者・地域と連携して維持管理を行っている（No. 36）。

【審議会意見】

○乳幼児にスポーツはできない。子どもの定義に乳幼児を含めるのは無理がある。家事や通勤は推進計画の中でのスポーツから外れているのではないか。

○乳幼児の成長過程での体づくりということも含め、様々な運動遊び、楽しく体を動かすことを含めて三田市の推進計画ではスポーツとしている。スポーツを限られたものにしてしまうのではなく幅広くとらえていきたい。

○子どもの発達段階に沿って考えていくと、赤ちゃんの時から運動遊びに入っていくので、その考え方で問題ないと思う。

○ストイックに行う競技だけでなく、幼児や高齢者、体の不自由な方でも行えるあらゆる運動も含めて幅広くスポーツとすればよい。

○最近ではレクリエーションもスポーツとしている。どこまでをスポーツとするかの明確な範囲を決めなければいけない。

○市では何をスポーツとするか前もって定義づけしている。世の中ではなく三田市の考え方、とらえ方で進める。

【現状と課題】

- ・子どもたちのスポーツ活動が多様化しており、その受け皿として地域のスポーツクラブ 21 をはじめとするスポーツ関連団体等の役割が期待される。
- ・スポーツクラブ 21 の活動は、市内全 20 の小学校区で展開されているが、活動範囲や会員の確保など地域ごとに課題が生じている。
- ・引き続き、心も体も健康で、人とのつながりの中で色々なことにチャレンジする「元気な子ども」に育てていくために、「積極的に体を動かす子ども」を育てていく必要がある。
- ・学校・家庭・地域、様々な団体が連携して、様々な機会を活用して、子どもたちがスポーツを「する」だけでなく、スポーツを「みる」「ささえる」機会も充実させていくことが必要である。

【審議会意見】

- 指導者育成のための事業は、無償で人材を確保しようとするのでは今後も厳しい。
- 色々な形のボランティアがあり、今はケースバイケースの中で動いている。今後の指導者や生涯スポーツを推進する上での課題である。答えはまだない。
- 人材確保にあたって人材バンクのような情報を、役所として確保し、情報交換を密に行えないか。
- 人材録は、需要と供給がマッチングしなければ派遣できないし、同じ人物ばかりの派遣になったりした。マッチングの仕方を工夫しなければいけない。
- ほとんどの子どもが競技として勝つためにやっている。競技に取り組む子どもと、楽しくやりたい子どもではっきり分かれている。望まれるのは、安定して毎週来れる人や1年がかりで指導できる人。それを地域で見つけ育てなければならない。登録して派遣するというシステムではそれは難しい。

【今後の基本方針】

- 生涯にわたって健康で活力ある生活ができる「健やかな体」の礎を築くためにも、妊娠・出産期、そして乳幼児期から親子で一緒に遊びや運動に親しめ、親子や保護者同士、地域との交流がもてる取り組みを進める。
- 引き続き、家庭、地域、学校、行政、スポーツ関連団体などが一体となって子どもの体力向上に取り組むことができる体制づくりを進める。
- 子どもたちがスポーツを通じて夢や希望をもてるよう、スポーツを通じた仲間づくり・交流の機会の充実のほか、子どもの頃からトップレベルの競技にふれる機会の充実を図る。

【基本的な取り組み】

①「健やかな体」の育成(乳幼児期からの遊び・運動の推進) **強化**

●親子でスポーツ(遊び・運動)に親しむ機会づくり(No.29)

- ・マタニティヨガやベビーマッサージをはじめ、妊娠・出産期、乳児期から親子のふれあい遊びや一緒に体を動かす機会の提供や情報を発信する。 **新規**
- ・福祉、子育て、健康、スポーツ分野が連携して、幼児検診や子育てイベントなどの機会を生かし、親子が気軽にスポーツ(遊びや運動)に親しみ、保護者同士も交流ができる機会を積極的につくる。
- ・親子が楽しく体を動かすことの大切さを啓発するとともに、市立幼稚園における「わくわく体操」の推進など、家庭や地域、幼稚園や保育園などでも気軽に取り組める(遊びや運動)を普及させる。

●幼児期の身体活動の促進 **新規**

- ・「幼児期運動指針ガイドブック」(文部科学省)など、幼児が楽しくスポーツ(遊びや運動)ができる具体的プログラムを紹介し、家庭や地域、幼稚園や保育園などにおけるスポーツ(遊びや運動)の機会の提供を促進する。

②子どもの体力向上の推進

●学校と地域の連携強化(No.29～31, 45)

- ・引き続き、学校やスポーツ関連団体が互いに連携を図り、子どもの体力向上、健康・体力維持に向けて、学校体育や地域行事等の中で積極的に運動やスポーツに親しむ習慣の定着を図る。
- ・また、子どもの体幹を育てる「キッピー体操」の普及・活用など、日常生活における体力向上の取り組みを推進する。
- ・地域と連携を図りながら、子どもたちが緑の中で外遊びが出来るよう、学校内の敷地の一部の芝生化を検討していく。

●学校体育の充実(No.32～35)

- ・「さんだっ子元気アップサポーター」派遣事業を進めるとともに、その内容や成果を広く公表する。
- ・引き続き、小・中学校における体育授業の改善・充実を図り、一人ひとりの体力などに応じた指導により体力向上・運動習慣の定着を図る。
- ・体育協会等と連携しながら、小学校のクラブ活動や中学校の部活動について複数校での活動支援など活動内容の充実のほか、指導者の育成、地域人材の積極的な活用等を通して競技力の向上を図るとともに、全国大会の出場校などの表彰、PRを積極的に行い、競技者の育成等を進める。

●指導者の育成・活用(No.27) **強化**

- ・スポーツクラブ 21 やスポーツ推進委員をはじめとするスポーツ関係団体と連携しながら、研修会などを通して指導者の養成を進めるとともに、地域の人材や民間の指導者等を積極的に活用できる仕組みを検討する。

③地域でのスポーツ活動の支援

●子どもを対象としたスポーツ機会の充実(No.17)

- ・引き続き、市内体育施設においてテニス、剣道、柔道やバレーボール等のスポーツ教室を開催する。
- ・子どもの体力向上、スポーツに親しむ機会の充実につなげるため、初心者向けの市民スポーツ教室や派遣型スポーツスクールなど各種スポーツ教室の充実を図り、参加者の増加につなげる。

●地域スポーツクラブ活動の支援と連携強化(No.36～40)

- ・各小学校区のスポーツクラブ 21 を中心に、他のスポーツ関連団体とも連携し、初心者子どもたちも気軽に参加できるスポーツ機会の充実や、スポーツを通じた多世代の交流により健全な心身の育成と仲間づくりを進める。
- ・地域住民が自らスポーツを通じた子どもたちの健全育成を実践する地域スポーツ関連団体の活動を支援し、子どもたちの心身の健康を図る機会を充実する。
- ・「スポーツクラブ 21 交流フェスタ」や交流大会、講演会など、クラブ間の交流を促進し、子どもから高齢者まで地域住民同士のふれあいの場を提供する。

●スポーツを通して子どもたちに夢や感動を与える機会の創出(No.19) **強化**

- ・レベルの高い競技等を間近に見ることで、子どもたちに夢や感動を与えることができるよう、スポーツ大会の招致など、「みる」スポーツを体験できる機会を充実する。
- ・トップレベルで活躍する競技者（トップアスリート）などを、学校や地域などに招待し、「本物」のスポーツにふれる機会やスポーツマンシップを身近に感じる機会を創出する。 **新規**

【審議会意見】

○これまではSC 21の組織強化部会で指導者の指導を行ったり、会員を対象に講演会を行ったり、スポーツクラブだけでなく三田市全体のために活動してきた。もっと行政がバックアップして一体となり、三田市をあげてのスポーツ振興のために協力していきたい。

【成果指標】

- 「運動・スポーツをすることが好き」と答える子どもの割合（児童生徒体力・運動能力調査）

現状（H28）：（小5）91.7%（中2）86.3%

（さんだっ子かがやき教育プラン）

- 子ども（小学5年生）の体力・運動能力テストの合計点

- スポーツクラブ21の活動への参加児童・生徒数

- 全国大会等の成績優秀者など表彰数

【審議会意見】

2. スポーツで「高齢者に生きがいを！」

スポーツを通じて、高齢者が元気でいきいきと暮らせる健康長寿社会を実現する。

【これまでの取り組み・成果】

- ・「さんだ市民チャレンジデー」や「スポーツレクフェス」など、交流体験を主体としたイベントを開催したり、健康推進員活動の地区活動に「ニュースポーツ（囲碁ボールなど）」を取り入れ、運動習慣の契機としている。(No. 36)。
- ・高齢者の健康維持や体力づくりを中心とした多様なメニューの「高齢者スポーツスクール」などを開催しており、参加者も増加傾向にある（平成 28 年のみ減少）。また、介護予防を目的とした「いきいき 100 歳体操」の普及活動を進めており、現在 20 グループが活動している。(No. 7)

【審議会意見】

- 資料に「健康づくり」という言葉が出てくるが、健康はつくるものではなく維持するものである。表現の修正を。
- 高齢者の定義は 65 歳からでいいのではないか。

【現状と課題】

- ・人口に占める 65 歳以上の割合は平成 28 年 10 月現在 21.3%（後期高齢者率 9.2%）と全国（26.7%）や兵庫県全体（26.3%）よりも低いですが、人口推計によると平成 37 年には 28.2%になるとされている（平成 28 年）。
- ・高齢者がいつまでも元気でいきいきと暮らしていくために、外出を含めた日常生活での活動量の維持に努め、身体機能・生活機能の維持を図ることが重要である。
- ・アンケートによるとボランティア、スポーツ、サークルへの参加割合は 7 割を超えており、潜在的な活動意欲の高い高齢者が多いといえる。社会の価値観や高齢者のニーズの多様化に応じたスポーツ等の機会の提供が必要である。
- ・市民アンケートによると、60 歳以上のスポーツ実施率は市全体より高い（6 割以上が週 1 回以上、4 割以上が週 3 回以上）。健康維持や体力づくり、運動不足の解消のほかに、スポーツを通じた友人・仲間との交流や自然とのふれあいなどを求める声も少なくない。

【審議会意見】

- 「高齢者に生きがい」の資料の表現では高齢者が弱者的な扱いになっている気がする。アクティブな高齢者のための取り組みもすすめたい。マスターズスポーツが世界的に流行っている。年配の方の競技交流の場を増やしていけないか。
- 現在ゴルフをしている人が高齢者になったからグラウンドゴルフをすることは限らない。世代によるライフスタイルの違いを把握しなければならない。
- マラソンにはタイムがあり競技性があるが、ウォーキングには競技性がないため、イベントで人が集まっても協会やクラブ化は厳しい。競技性を求めクラブにすると費用が掛かる。各地域単位では行われていると思われるが、それらを一つにまとめた会を作るのは難しい。
- シニア世代がノルディック・ウォーキングに興味を示しているのは間違いないが、コースをポール持って歩いている人はいない。関心をもってもらうための工夫がいる。
- ウォーキングは毎日するから、その日だけポールを貸し出しても続けられない。個人で買うにはハードルが高い。
- 中学校の部活動は顧問の先生が立ち会わなければ行えないので、先生の数が足りない。
- 学校は教育として部活動を行っている。子どもたちは教育とは思っておらず、競技としてやっており、ギャップがある。

【今後の基本方針】

- 高齢者が地域の中で、いつまでも元気でいきいきと暮らしていけるよう、引き続き高齢者が身近にスポーツに親しめる機会づくりを進め、健康的な生活習慣・運動習慣の定着を図る。
- 高齢者がスポーツを通じた仲間づくり、生きがいづくりができるよう、スポーツを通じて多世代との交流ができる機会づくりや体制づくりを進める。

【基本的な取り組み】

①高齢者のスポーツに親しむ機会づくり

●高齢者の健康維持の支援(健康的な生活習慣の実践)(No.6, 7)

- ・引き続き、生活習慣予防などのスポーツのメリットを啓発しながら、健康推進員等と連携して「ニュースポーツ(囲碁ボールなど)」取り入れた活動の推進など、運動習慣のきっかけづくりを行う。
- ・自治会をはじめ、老人介護施設等と連携しながら、高齢者の健康維持や体力づくりを中心とした三田市オリジナルの「いきいき100歳体操」の普及・啓発活動を進める。
- ・市内の自然や文化にふれながら気軽に取り組める運動である「ノルディックウォーキング」や「ニュースポーツ」などの普及・啓発を行う。

●「高齢者スポーツスクール」の充実(No.7)

- ・引き続き、高齢者の体力に応じた「高齢者スポーツスクール」の内容充実・積極的なPRを図り、幅広い参加者の拡大を図る。

②スポーツを通じた仲間づくり・生きがいづくりの促進 **強化**

●スポーツを通じた交流イベント等の開催(No.23)

- ・「さんだ市民チャレンジデー」や「スポーツレクフェス」の開催など、スポーツを通じて、仲間づくりや地域での多世代との交流を深める機会の充実を図る。
- ・地域の幼稚園や保育園、学校、大学や老人施設等と連携して、子どもたちと高齢者、若者と高齢者が交流しながら体を動かしたり、スポーツに取り組める機会づくりを行う。 **新規**

●元気高齢者の積極的な活用 **新規**

- ・運動能力の高い元気な高齢者には、「三田市達人録(生涯学習人材バンク)」等への登録・派遣などにより、子どもたちのスポーツ推進活動のサポーターや指導者として活躍の機会を設ける。

【審議会意見】

- 仲間づくりや生きがいづくりについて、スポーツクラブに入っていないと行えないものでなく、市が一体となって三田市民のための規模の大きい催しを行いたい。
- いろいろな種目で、高齢者が競争意識を持って行える大会など、環境、場をつくらなければならない。
- ノルディック・ウォーキングはスポーツという枠組みに入れると、高齢者や体の不自由な人への敷居が高くなってしまふ。膝への負担軽減など、福祉的な要素を持つことをアピールし、福祉の一環としての観点からの推進をすすめるべき。
- 中学校の部活動が縮小方向に向かっているのは止めたい。民間から指導者を呼ぶなどの対策が必要。

- 部活動は学校に任せるのではなく、地域が子どもたちを育てるという目的を持ち、学校でできなくとも地域型スポーツクラブで競技を行えるように進めなければならない。愛知県の半田市の例では小中高が一つになり学校施設を使った地域型スポーツクラブを行う流れがあった。それに寄せるのか、もっと学校のクラブを活性化するのか。今後課題として検討しなければならない。
- 今後国会で学校の部活動は外部からの指導者が行ってもよいとする案が出るはず。

【成果指標】

○高齢者スポーツスクール受講者数 現状（H25）：108人、目標（H29）：増加

（第6期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画）

○高齢者（60歳以上）のスポーツ実施率（市民アンケート）

現状（H29） 週1回以上 66.8%（60歳代）、62.2%（70歳以上）

週3回以上 42.0%（60歳代・70歳以上）

○健康や体力に不安のない高齢者率（60歳以上）（市民アンケート）

現状（H29） 体力 73.2%（60歳代）、67.1%（70歳以上）

健康 89.2%（60歳代）、70.2%（70歳以上）

【審議会意見】

3. スポーツで「障がい者に元気を！」

共にスポーツに親しむことで、ノーマライゼーションを進め、心のバリアフリーや共生社会を実現する。

【これまでの取り組み・成果】

- ・「スマイルピック」の開催により、スポーツ・レクリエーションを通じて障がいのある方の社会参加を目指すとともに、障がいのある方とボランティアとの交流を図っている（No. 8）。
- ・「障がい者水泳教室」、ボクササイズやスポーツ吹き矢などの「障がい者スポーツ教室」、「ふれあい卓球大会」を開催し、障がいのある方のスポーツ参加と体力増進、活動意欲の増進を図っている（No. 8）。
- ・地域の主催するイベントやスポーツ推進員が講師となる「派遣型スポーツスクール」に障がいのある方も参加している（No. 24）。

【審議会意見】

○「障がい者に元気を」というテーマについて、障がい者に元気がないという前提を感じる。「障がい者にスポーツ実施の機会を」というような意味合いのテーマ設定ができないだろうか。実際に引きこもっている障がい者は多いが、夢を持っている方も多くいる。健常者にも元気のない人はいる。障害の有無で区別する必要はなく、生きがい・趣味としてのスポーツ交流の機会を充実しようとするほうが望ましい。引きこもらずにスポーツで外に出て元気に生きる、というニュアンスなら「元気を」ではなく「機会を」のほうがいいのでは。

○どのコンセプトも「スポーツで」を始めに持って来ているので、子どもが夢、高齢者が生きがい、次に「機会を」となると違和感がある。「喜びを」の方が語呂がいいのでは。次回までに検討を。

○市が直接関係するのではなく、あくまで各団体の自主的な取り組みとして6月に障がい者のスポーツ団体を立ち上げるための会議が行われたが、具体的な進展はなかった。健常者と障害のある方との温度差があり進行が難しいようだ。

○ランニングをされる身体障がい者の教室へのニーズは高い、継続を望む声もあり、マスターズマラソンで走りたいという人も増えている。関係団体に協力いただき、今後もサポーターを増やしていきたいと思う。

○去年のマスターズマラソンでは5人の併走ボランティアが参加した。まだ時間はかかると思うが仕組みを確立していきたい。

【現状と課題】

- ・障がいのある人のスポーツに関するニーズを把握し、より参加しやすい機会づくり・体制づくりが必要である。
- ・また、兵庫県障害者スポーツ指導者養成講習会への参加等を通じ、障がい者スポーツを支える人材の育成を積極的に進めていく必要がある。
- ・市民アンケートによると、「障がい者と健常者がともにする機会」について参加または観戦したことがある人は12.5%と低く、スポーツを通じた交流を促進していくことが必要である。
- ・スポーツ施設のバリアフリー化を含めた障がいのある人が身近にスポーツを楽しめる環境づくりとともに、スポーツを通じた交流を進め、スポーツにおけるノーマライゼーションの実現を図っていくことが必要である。

【審議会意見】

○障がい者のランニング教室は、現在、三田市社会福祉協議会が母体になっているが、クラブチームが中心になれないか。

○障がい者のスポーツの在り方について、昔はスポーツ競技で健常者に負けてしまうことから、大会などを別で開催するようなケースもあった。スポーツは差別を生むものではないしあってはならない、いっしょに輪を広げていけるような方法を模索していければと思う。

【今後の基本方針】

- 引き続き、庁内関係各課、スポーツ関連団体とともに、積極的に情報発信を行い、障がいのある人がスポーツをするきっかけづくりを行うとともに、スポーツを継続的に楽しめる環境づくりを進める。
- また、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催を機会に、障がいの有無に関係なく、市民みんなが共に楽しめるスポーツの普及を通して、スポーツにおけるノーマライゼーションの実現を図る。

【基本的な取り組み】

①身近に障がい者がスポーツを楽しめる機会づくり

●障がい者が身近にスポーツできる機会づくり(No.8)

- ・地域のふれあい推進協議会を中心に、体育振興会やスポーツクラブ 21 とともに、障がいのある人とハイキングやゲームを楽しみ、交流を深める「スマイルふれあいウォーキング」の普及、参加者拡大を図る。
- ・引き続き、「障がい者スポーツ教室」や「派遣型スポーツスクール」など、障がいのある人を対象とした各種スポーツ、レクリエーション教室を開催する。
- ・また、「ふれあい卓球大会」の開催などを通じて、日頃取り組んでいる練習の成果を発揮し、さらなる技量の向上と活動意欲の増進を目指す。

●障がい者が参加しやすい軽スポーツの普及(No.8,24)

- ・障がい者団体との情報交換や交流を深めながら、盲人卓球(STT)やニュースポーツなど、多様な障がいに対応したスポーツの普及・啓発を図る。

②障がい者のスポーツ活動の支援

●障がい者の外出支援・社会参加の促進 **新規**

- ・公共施設の使用料の減免等により、障がい者の外出支援・社会参加の促進を図る。

●障がい者のスポーツ拠点づくり **新規**

- ・既存施設などを活用して、障がい者が気軽に利用したり、スポーツ教室や大会等を開催できるスポーツ拠点づくりを検討する。

●指導者の育成(No.8,24)

- ・兵庫県障害者スポーツ指導者養成講習会への参加などを通じ、障がいの程度やスポーツ経験等に応じた適切な指導ができる人材の養成や派遣ができる仕組みを検討する。

③スポーツを通じたノーマライゼーションの推進 **強化**

●障がいに関係なく共に参加・交流できるスポーツの普及(No.24)

- ・ウォーキングやニュースポーツなど、多様な市民が共に参加できるスポーツの普及や、地域の運動会への障がい者の参加促進など、スポーツにおけるノーマライゼーションの実現に向けた取り組みを進める。
- ・「ふれあい卓球大会」での学校や多世代交流館シニアユースひろばの卓球参加者等との試合など、障がい者のスポーツイベントへの市民参加を促進し、地域との交流がもてる機会を提供する。

・「スマイルピック」の開催などを通じて、障がい者とボランティア、地域の住民などとの交流を図る。

●スポーツ施設等のバリアフリー化の促進

・スポーツ施設や駐車場等のバリアフリー化（段差の解消、手すりの設置、サイン標識の設置等）やウォーキングコース等のサイン設置等を進め、障がいのある方にも利用しやすいスポーツ環境づくりを進める。

●障がい者のスポーツ実施を支えるボランティアの育成 **新規**

・障がい者のスポーツ実施を支えるボランティアの育成・活用を目指す。

【審議会意見】

○篠山市の人もわざわざ大阪まで行っているが、三田市にあるほうがありがたいと聞く。

○ウォーキングランニングのボランティアは、得意でなくても一緒に歩く、あるいは話すだけでもいい。井戸端会議のような場を母体としてクラブチームが中心に行えるのが理想である。

○クラブチームの中でも独立した伴走者協会のような話が進んでいる。講習会の数を増やし来て体験してもらえる機会を作りたい。

【成果指標】

○スマイルふれあいウォーキング、ふれあい卓球大会の参加者数 現状（H28）49人（ふれあい卓球大会）

○障がい者と健常者がスポーツをともにする機会の参加率（市民アンケート） 現状（H29）12.5%

【審議会意見】

4. スポーツで「地域コミュニティの活性化を！」

子どもから高齢者までの多世代が、共にスポーツを楽しめる環境を整え、スポーツクラブ 21 や学校の部活動との連携など、地域コミュニティの活性化を図る。

【これまでの取り組み・成果】

- ・市民一人ひとりが主体的にスポーツに取り組めるよう、「市民スポーツ教室」や「さんだ市民チャレンジデー」、「派遣型スポーツスクール」などを開催している (No. 5)。
- ・指導者の育成・活用としては、「シニアスポーツスクール」や「障がい者水泳教室」において、民間の人材の活用を行っている (No. 11)。また、種目協会ごとにスポーツクラブ 21 のクラブチームに市民が指導者として関わっているが、指導者の養成は実施できていない (No. 16)。
- ・各地区で、「体育振興会」による地区スポーツ大会の実施や、「スポーツクラブ 21」を中心とした地域スポーツ活動が展開されている (No. 13, 16, 22)。
- ・スポーツ推進委員は、全 20 小学校区計 21 人の配置が完了し、「派遣型スポーツスクール」や「さんだ市民チャレンジデー」などの市のイベントへの協力など、積極的に活動中である (No. 16, 21)。

【審議会意見】

○これまでの成果として、三田は地域コミュニティが進んでいる地域といえると思う。

【現状と課題】

- ・スポーツ推進に関わる各地域のスポーツ活動団体としては、体育振興会、スポーツクラブ 21、体育協会、スポーツ推進委員会などがあるが、体育振興会は団体数が減少傾向にあり、スポーツクラブ 21 との役割分担やすみわけ、各地域の実情に応じた組織の再編が必要である。
- ・市民アンケートによると、成人の週 1 回以上のスポーツ実施率は 58.4%と、平成 23 年の 36.8%より大きく向上した。スポーツクラブなどへの所属率は 3 割程度である。
- ・市民アンケートによると、週 1 回以上のスポーツ実施率は子育て世代や働きざかりの世代（20 歳代 40.3%、30 歳代 50.9%、40 歳代 48.8%）が低くなっており、これらの若い世代が運動習慣を身につけるきっかけの場が必要である。
- ・市民の多様化するニーズに対応していくため、スポーツ関連団体はもちろん、子育て、福祉、健康、環境など、様々な分野の団体等とも連携した幅広い取り組みを展開していくことが必要である。

【審議会意見】

○スポーツと体育の住み分けができていないケースが多いと感じる。この審議会では三田におけるスポーツをどのようなものと考えているのか。

○現行の計画ではスポーツを種目に限らずあらゆる日常の生活動作・身体活動ととらえる、としている。興味のない人にもスポーツに関心をもってもらうには、専門的なスポーツに絞ると難しい。三田市ではスポーツイコール競技ではなく健康を維持するためのものと意識している人が多い。自分で行う以外にも、見て楽しむ、ボランティアで支えるなど、あらゆる関わりを意図している。

○子どものスポーツに関しても、学校に任せっきりにするのではなく、地域が子どもの成長にかかわる意識が大切である。もっと課外活動などのスポーツの機会を増やし子どもとの接点を作っていくべき。

○部活動はそもそも体育の延長でルールを知るといふ考えのもとにある。市内の公立中学校の状況を見てみると卓球部がほとんどない。日本の卓球は世界レベルの選手がたくさん育っている。部活で育った例も多いはず。

【今後の基本方針】

- 引き続き、スポーツクラブ 21 やスポーツ推進委員会を中心に、地域の多様な主体が連携した市民主導型の地域スポーツの活性化により、子どもから高齢者までの多世代がスポーツを通じて交流できる環境づくりを進める。
- 生涯スポーツの実現に向けて、スポーツの実施率が低い若い世代（子育て・働き盛り世代）を中心に、スポーツをしてない人や苦手な人も参加しやすい環境づくりを進め、スポーツ参加層の一層の拡大を目指す。
- さらに、地域スポーツ活性化を担う人材の育成や活用により、地域スポーツ活動のスパイラルアップを図り、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化を目指す。

【基本的な取り組み】

①市民主導型の地域スポーツの活性化

●スポーツクラブ 21 の活動支援 (No.16,36~42)

- ・引き続き、個々のクラブの実態に応じた活動を支援するとともに、活動規模の見直しや、幅広い年齢層の加入促進を図る。また、広報活動を充実し、地域の理解・参画を広める。
- ・引き続き、広報紙やホームページなどの充実、発信内容や方法の見直しにより、地域に活動内容の PR を行うとともに、「スポーツクラブ 21 さんだ連絡協議会」の充実や「スポーツクラブ 21 ひょうご三田市推進委員会」の活用により、組織の活性化や交流・情報交換による連携強化を図る。
- ・市民ニーズや必要性に応じて、地域の関連団体との連携を強化して取り組みの輪を広げるとともに、参加者の若返りを検討していく。
- ・引き続き、クラブハウスを地域の健康・交流の拠点として位置づけ、積極的な活用を進めていく。

●スポーツ団体の活動支援・連携強化 (No1,3,11~15, 18)

- ・引き続き、体育振興会による地域運動会や地区スポーツ大会の開催など、各団体の活動を支援するとともに、組織間の役割分担や組織の再編など、地域のスポーツ活動を担う団体の連携・体制づくりを見直していく。
- ・市民の健康・体力づくりや次世代の競技者の育成などにつながるよう、スポーツ関係団体や学校、地域、民間のスポーツクラブや民間事業者との連携・協働関係や支援制度の再構築を進める。
- ・「スポーツ」に関する活動を中心とした NPO の組織化を視野に入れた、意識統一の醸成と自立化に向けた仕組みづくりを進める。

●部活動等との連携 **新規**

- ・幼稚園や保育園の地域開放の活動や小中学校の部活動（クラブ活動）等と連携した、子どもと保護者だけでなく、障がい者や高齢者も含めた多様な世代が参加・交流できるスポーツイベントや行事を支援する。

②誰もが身近にスポーツに親しめる機会づくり

●若い世代(子育て・働き盛り世代)のスポーツ推進 **強化**

- ・働き盛りの世代への運動習慣の啓発として、大学や職場（事業所等）との連携により、広報やイベン

ト、健康増進プログラムなどを活用した情報の提供・啓発を行う。

- ・自転車通勤の推奨やスポーツ活動の推進、グラウンド等の地域開放など、スポーツの促進に積極的に取り組んでいる企業（事業所等）の懸賞制度について検討する。
- ・子育て世代や働き盛りの世代が、運動・スポーツをする時間を確保できるよう、兵庫県の「ワーク・ライフ・バランス」の紹介などに取り組む。
- ・地域の学校体育館などの身近な場所で、気軽に運動を体験する機会の増加を図るとともに、スポーツを通じた仲間づくりができるような仕掛けづくりを検討する。

●身近にスポーツができる機会の創出(No.5~6)

- ・スポーツをしていない人やスポーツが苦手な人も参加しやすいメニューや開催時間等を検討し、「市民スポーツ教室」など、身近にスポーツを楽しめるきっかけづくりを行う。
- ・ウォーキングコースやジョギングコースのPRなど、市民が体を動かすきっかけづくりに努める。

●スポーツ推進委員等による地域スポーツ活動の拡充(No.20~22)

- ・引き続き、スポーツクラブ 21 の育成・強化に積極的に取り組むとともに、「派遣型スポーツスクール」の活性化や、「さんだ市民チャレンジデー」など、多くの市民が参加できる催しなどの企画・運営を進め、より多くの市民がスポーツにふれる機会の拡充を図る。
- ・地域に密着したスポーツ指導者やコーディネーターとしての役割を担えるよう、指導者の育成などの充実を検討する。

③誰もが身近にスポーツを楽しめる場づくり

●既存施設等の有効活用(No.1,20~22,43~44,47)

- ・市内の公共施設について、「スポーツ」の観点から施設を総合的に捉え、各施設の特色を活かしながら、市民が利用しやすい体制を整備する。
- ・学校施設（グラウンド、体育館、クラブハウス、余剰教室など）についても、引き続きスポーツクラブ 21 の使用だけでなく、学校 PTA 活動や「放課後子ども教室」事業のほか、地域住民の運動・スポーツ教室やイベント等の利用についても検討する。
- ・企業のグラウンド等の民間スポーツ施設についても、地域のスポーツイベント等への利用など、支援・協力体制の充実を図る。

●スポーツ施設の効率的な運営(No.11,46)

- ・引き続き、公共スポーツ施設では、指定管理者や地域住民と連携しながら、多様化する市民ニーズに対応する管理運営及び施設整備を行うとともに、生涯スポーツに寄与するスポーツイベント・教室等の企画・運営を行う。

④スポーツ推進に関わる人材の育成・活用 **強化**

●指導者の育成・活用(No.16,25~28)

- ・スポーツ推進委員会やスポーツクラブ 21 の活動の中で、利用団体内における指導者の育成などの充実を検討していくとともに、指導者研修会を活用した指導者の技術向上や自己啓発を図る。
- ・「スポーツ指導者連絡会」の設置や、「三田市達人録（生涯学習人材バンク）」などの活用も含め、市内外のスポーツ人材の登録・派遣の仕組みづくりについて検討する。

【審議会意見】

- 今後は学校に部活動がなくてもスポーツクラブでできるという仕組みも目指していくべき。
- 地域の活性化を考えると時にスポーツクラブ21の在り方が問われる。少子高齢化で活動がしにくくなる中、スポーツクラブ21を3年後を目途に統合したい。いろいろな課題もあるが、そうしていかないと活動の場が減ってしまう。10年後に振り返ったとき、よかったと思える取組としたい。
- スポーツクラブ21の他にも体育協会、推進委員等いろいろあるが、各団体が一同に集まりみんなが集まる機会があると良いのではないか。

【成果指標】

○駒ヶ谷運動公園の利用者数 現状（H27）：270,781人 目標（H33）：280,000人

○スポーツクラブ21会員数の割合 現状（H27）：12.5% 目標（H33）：14.0%

（第四次三田市総合計画）

○スポーツクラブ21・スポーツ推進委員の認知度（市民アンケート）

現状（H29）：43.1%（スポーツクラブ21）、32.1%（スポーツ推進委員）

【審議会意見】

5. 三田らしいスポーツの推進

すべての市民がスポーツの価値を共有する共生社会を目指し、ライフステージを通じた生涯スポーツを基本とした、三田らしいスポーツの推進を図る。

【これまでの取り組み・成果】

- ・平成 27 年には「三田国際マスターズマラソン」のコースをリニューアルし、毎年 5,000 人を超えるエントリーと盛況である (No. 5)。
- ・ウォーキングコースの紹介や、「ノルディックウォーキング」用のポールを希望者に貸し出し、「シニアスポーツスクール」などのメニューに取り入れるなど、「ノルディックウォーキング」の普及を進めている (No. 6, 7, 11)。
- ・平成 26 年、27 年度に市内 10 か所にウォーキングコースを整備し、コース紹介等の PR を行っている (No. 6)。
- ・競技スポーツの推進として、兵庫ブルーサンダース野球教室をはじめ、競技スポーツを行う地域の人材を活用した講演会等の開催やスポーツ大会等で優秀な成績を修めた選手等の表彰を行っている (No. 10)。

【審議会意見】

- これまでの審議の中で、三田らしいスポーツの推進、ライフステージ、生涯スポーツというワードが多く出された。ぜひ取り組んでいただきたいのがサイクリング、カヌー、キャンプであり、これはまさに三田の地の利など特性を生かしている。
- 約 1700 人が参加する桜回廊ウォークも、三田らしいウォーキングの一つに数えられると思う。
- ウォーキングコースを市内エリアに 10 コースも用意し、市民に提供している自治体は他にあまり例がない。ウォーキングへの取り組みそのものが三田らしさと言える。

【現状と課題】

- ・市民アンケートによると、1年間で行った主要なスポーツとして5割以上が「散歩・ウォーキング」をあげている。
- ・市民アンケートによると、多くの市民が「三田国際マスターズマラソン」は、「全国から多数の参加者が三田市に訪れ、市の知名度の向上や集客に効果的なイベントであり、力を入れて実施すべき」、「市民のスポーツ振興を図るうえで効果があるイベント」としている。また、沿道での応援も含め42.4%が何らかの形でこのイベントに参加している。
- ・三田市の豊かな自然環境や文化などの魅力資源を生かしたスポーツの推進とともに、これらを生かしたスポーツツーリズムの展開など、魅力発信につなげていくことが必要である。
- ・「する」スポーツはもとより、地域で活動する「兵庫ブルーサンダース」やパラリンピック出場者など、地域の競技スポーツに携わる人材・団体等との交流の機会や、トップレベルの観戦の機会づくりなど、市民の「みる」、「ささえる」スポーツをサポートする環境づくりが必要である。
- ・より一層のスポーツ人口の拡大を図るために、多様なライフスタイルの中でも、誰もが、いつでも、どこでも、気軽にスポーツを「する」、「みる」、「ささえる」を実現するためのわかりやすい情報発信が必要である。

【審議会意見】

【今後の基本方針】

- 市内の豊かな自然をはじめとする三田の魅力資源を生かした「ノルディックウォーキング」などの普及を図るとともに、スポーツツーリズムの展開による魅力発信を行う。
- 市民が一体となってトップレベルのスポーツにふれる機会やトップアスリートの育成・支援など、「みる」「ささえる」スポーツの実現を図る。
- 誰もが、いつでも、どこでも、気軽に「する」「みる」「ささえる」スポーツを実現できる、わかりやすい情報発信を目指す。

【基本的な取り組み】

①三田の特性を生かしたスポーツの推進 **強化**

●三田の豊かな自然環境を生かしたスポーツの推進

- ・市内の豊かな自然や文化に触れながら、誰もが気軽に取り組める運動として「ノルディックウォーキング」をはじめとするウォーキングを推奨し、市内 10 カ所のウォーキングコースを活用した市民の健康づくりを図る。
- ・三田の特徴を生かしたスポーツイベントとしてノルディックウォーキングイベントを開催するとともに、シティーセールスの観点から普及にも努める。
- ・また、ジョギングやサイクリング、登山、ハイキング、キャンプ、カヌーなど、三田の豊かな自然とふれあいながら楽しめるアウトドアスポーツの推進を図る。
- ・北部の山地や有馬富士公園、千丈寺湖、武庫川などを活用したサイクリングコースの検討を行う。

●地域の魅力資源を生かしたスポーツツーリズムの展開(No.5)

- ・「三田国際マスターズマラソン」や「ノルディックウォーキングイベント」を中心に、三田の豊かな自然や歴史資源などを活用したスポーツツーリズムを展開し、スポーツによる交流人口の拡大、本市の魅力発信につなげる。

②競技スポーツの推進

●トップレベルの競技会開催支援 **新規**

- ・トップアスリートとの交流の機会づくりをはじめ、トップレベルの競技会や大会などの開催を積極的に支援する。

●トップアスリートの育成・支援 **新規**

- ・スポーツ選手のレベルアップを図るため、市内の各種スポーツ団体が連携して選手強化体制を充実させるなど、トップアスリートの育成・強化に取り組む。
- ・スポーツ少年団や市内の各学校、スポーツクラブ 21 などと連携し、運動能力の高い子どもを発掘し、市内の各種スポーツ団体の連携と協働のもと育成プログラムに取り組むなど、ジュニアアスリートの発掘・育成を検討する。

●競技スポーツの推進(No.10,19)

- ・引き続き各スポーツ関連団体との連携を図るとともに「兵庫ブルーサンダース」をはじめとする地域で活動するスポーツクラブ等の活動の支援など、競技レベルの維持・向上を図る。
- ・スポーツに関わる人材と地域における連携・協働を進め、トップアスリートや競技スポーツに関わる

地域の人材による講習会、スポーツ教室などの開催など、トップアスリートがもつスポーツ技術や地域の人材などが、地域のスポーツ活動に活かされる「好循環」の創出を図る。

③スポーツ観戦の機会づくり **新規**

●スポーツ観戦の推進

- ・地域で活動する「兵庫ブルーサンダーズ」をはじめとするスポーツクラブとの交流を通じて、スポーツ観戦の機会づくり、市民とのふれあいの機会の創出を図る。

●トップアスリートとの交流の機会づくり

- ・市民ニーズにあわせてトップアスリートなどによる講習会やスポーツ教室の開催を検討する。(No.19)
- ・また、スポーツチーム等の合宿などの招致を図り、トップアスリートとの交流や活動支援を行う。

④誰もがアクセスしやすいスポーツ情報の発信 (No.9) **強化**

●多様な媒体を活用したスポーツ情報の発信

- ・スポーツイベントの参加を募るチラシだけでなく、市の広報誌やホームページ、SNS、マスメディア、各スポーツクラブ 21 による広報誌など多様な情報媒体を活用し、スポーツ大会や教室、スポーツ観戦、スポーツ団体等の活動に関する情報などを積極的に発信し、スポーツを行っていない市民やスポーツが苦手な市民も含めたより多くの市民がスポーツを「する」「みる」「ささえる」きっかけづくりにつなげる。

●市内の連携強化によるわかりやすい情報の発信 (No.4)

- ・福祉、健康、子育て、地域振興、観光、スポーツ担当など、様々な部局との連携を強化し、スポーツに関する情報の共有により、市民にわかりやすい一体的な情報発信に努める。

●スポーツイベントや交流会を通じた活動内容の発信

- ・市内のスポーツイベントや交流会をはじめ、様々な機会を通じて、地域でのスポーツ活動の内容や、地域で活躍する人材の取り組みなど、活動内容を広く発信し、共有していく。

【審議会意見】

- シルバー人材センターのスポーツ版など、スポーツ用の人材バンクをぜひ作ってほしい。
- 市内在住のトップレベルの選手の活用や、オーストラリアの姉妹都市からもスポーツ選手を呼ぶなどの取り組みも考えられる。

【審議会意見】

【成果指標】

○週1回以上運動・スポーツをしている人の割合 現状（H28）：42.4%、目標（H33）：46.0%

○ノルディックウォーキングイベントへの参加者数 目標（H33）：1,100人

（第四次三田市総合計画）

○国際三田マスターズマラソンへの参加者数 現状（H28）5,212人

【審議会意見】